

プレスリリース

展覧会

猪熊弦一郎展 新しい美—抽象の探求

2013年11月16日(土) - 2014年2月16日(日)

休館：2013年12月25日(水) - 31日(火)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

展覧会に関するお問い合わせ及び資料のご請求先：

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

公益財団法人ミモカ美術振興財団

担当＝松村円

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1

tel:0877-24-7755

fax:0877-24-7766

<http://www.mimoca.org/ja/press/>

## 【展覧会概要】

展覧会名： 猪熊弦一郎展 新しい美-抽象の探求  
会 場： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室C  
会 期： 2013年11月16日（土）-2014年2月16日（日）（86日間）  
休館：2013年12月25日-31日  
開館時間： 10時-18時（最終入館17時30分）  
主 催： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団  
観覧料金： 一般950円 [760円]、大学生650円 [520円]、高校生以下または18歳未満・丸亀市  
内在住の65歳以上・各種障害者手帳お持ちの方は無料  
[ ]内は前売り及び20名以上の団体料金  
同時開催企画展「猪熊弦一郎展 丸亀とともに -香川県立丸亀高等学校所蔵作品を  
中心に」および常設展観覧料を含む  
\*11月23日（土・祝）は開館記念日のため観覧無料  
\*12月20日（金）はコンサート準備のため常設展は観覧無料。ただし15:00-18:  
00はご覧いただけません。

前売券販売場所：

[丸亀] あーとらんどギャラリー（0877-24-0927） オークラホテル丸亀（23-2222） おみやげ  
SHOP ミュウ（22-2400） きままや（22-9361）

\*作品保護のため、会期の途中で一部の作品を変更いたします。（前期：11月16日（土）-12月24日（火）／後期：1月1日（水・祝）-2月16日（日））

**\*本展は「猪熊弦一郎展 丸亀とともに -香川県立丸亀高等学校所蔵作品を中心に」と同時開催いたします**

## 【展覧会趣旨】

猪熊弦一郎（1902-1993）の作品は、1955年の渡米後、抽象に変化したと言われていました。渡米して数年後には、具体的なものを指し示さない形を描いた絵画や、思うままに筆を走らせ、画面に絵の具がほとぼしった絵画を制作しました。それまで日本で描いていた人物や猫といった姿が作品から消えたのです。「オブジェクティブなものを除けるのに成功」\*することは、虚飾のないニューヨークに拠点を構えた猪熊にとって、素の自分で勝負し、純粋で強い絵を描くために必要でした。

しかし猪熊の作品は、このときに具象から抽象へと一方向に変化したわけではありません。渡米前から滞米中を含め晩年までの間、具象画と抽象画のあいだを行ったり来たりし、あるいは一つの作品のなかに二つの要素が同居したりしています。具象画を描いているころから人や動物などは画面を占める色のスペースと考えたり、晩年には顔も形の組み合わせであると考えた猪熊が、自分だけが生み出せる「新しい美」をもつ絵画を描こうとした結果、独自の歩みを進めることになりました。

本展では、1940年代後半から渡米までの作品を通して抽象へのめざめを検証し、さらに晩年までの作品を通覧することで、猪熊と抽象との関わり、具象、抽象の枠組みを超えるダイナミックさをもつ猪熊作品の魅力をご紹介します。

\*「形のないものを描きたい 滞米二年で感じたこと」（談話）東京新聞、1957年8月13日

※ 出品作品例の広報用画像をご希望の際は、データにてお送りいたしますので、当館ウェブ上のプレス用ページ (<http://www.mimoca.org/ja/press/>) よりお申し込みください。なお、著作権の都合上、画像をご掲載の際は必ずクレジット等のご記載もあわせてお願い申し上げます。

## 【トピックス】

### 1. 猪熊の抽象画

具象絵画ながら写実から変形を推し進めていた渡米前の作品では、対象を色の面で捉え、その配置によって画面の均整をとろうとしていました。そうした下地があったところに、渡米して新しい環境に身を置くことで、物に頼らず、色と形の構成による作品へと変わることになります。渡米前後の作品を連続して展示することによって、猪熊の抽象画がいつ、どのような流れで描かれ始めたかを示します。さらに、それらの作品を同時に見ることで、どのような新しい美が生まれたか、作品の注目ポイントが体感できます。

### 2. 猪熊にとっての具象・抽象

猪熊は長い画業のうち、幅広い年代にわたって具象・抽象を描いています。同じような構成に見える作品群でも「四角」や「丸」という単語を使って題名にしたもの、「都市」を題名のなかに用いたものなどがあり、猪熊が具象・抽象をそれぞれどのように考えていたか、自分の絵にどのように活かそうとしていたかを探ります。

### 3. 具象と抽象の共存

猪熊の作品には、具象と抽象が共存しているように見えるものがあったり、あるいは抽象と思って見ていると、ふいに具象があらわれてきたりします。こうした組み合わせの妙や、形が発する印象の複雑さ、奥深さは、猪熊のたぐいまれな造形感覚のなせる技によるものと言えます。猪熊の創造の世界をお楽しみください。

## 【関連プログラム】

### 1. ワークショップ

「フェルトでキャンバスアート」

猪熊弦一郎の絵の色面の配置やかたちに注目しながら、展覧会を見た後、フェルトをキャンバスに貼り付けて絵をつくりましょう。

日時：①2013年12月8日（日）10:00-12:00

②2013年12月14日（土）、15日（日） 各日10:00-12:00

場所：3階展示室C、2階造形スタジオ

対象：①高校生～大人

②小・中学生

参加料：300円

申込締切：①2013年11月21日（木）必着

②2013年11月28日（木）必着

定員：各日20名

お申込み方法：

ワークショップ名・名前・ふりがな・学年（年齢）・郵便番号・住所・電話番号を書いて、メール（workshop@mimoca.org）もしくはハガキで美術館ワークショップ係まで。当館ウェブサイトのフォームからもお申し込み可能です。

●応募者多数の場合は抽選し、その結果は締め切り後全員にハガキでお知らせします。兄弟・友人の場合、1枚のハガキもしくはメールで一緒にお申し込みができます。

●メールまたはウェブサイトのフォームからのお申し込みの場合、募集締切日の翌日までに受付完了の返信メールが届かなければご連絡ください。

●メール、ウェブサイトのフォームからのお申し込みの場合、当館からのメールが受信できるように設定しておいてください。

●締切後でも定員に満たない場合は、受け付けますのでお問い合わせください。

## 2. キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（松村円）が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

日時：会期中の第1、第3日曜日 各日 14:00-

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込：不要（美術館1階受付前にお集まりください）

## 【作家紹介】

猪熊弦一郎

### 【略歴】

- 1902 香川県高松市に生まれる
- 1922 東京美術学校（現東京藝術大学）西洋画科に入学。3年次から藤島武二に学ぶ。
- 1926 帝国美術院第7回美術展覧会（帝展）初入選
- 1929 第10回帝展で特選
- 1933 第14回帝展で2度目の特選。以後、帝展無鑑査となる。
- 1936 志を同じくする仲間たちと新制作派協会（現新制作協会）結成
- 1938 念願のパリに留学。滞欧中、イタリア、スイスなどを旅行する。またパリではマティスに自作を見てもらうほか、画廊を勢力的に巡りマティスやピカソなど当時の巨匠たちの実作に多く触れる。それらに刺激を受け、さまざまな描き方を試みる。
- 1940 帰国。
- 1944 神奈川県津久井郡吉野町（現神奈川県相模原市緑区）に疎開する。
- 1946 田園調布に戻る。人物や猫、鳥などを多く描く。画面の均整をとるために人物や動物などを厳しく単純化し、さらにそれらを色のスペースとして考えて描くようになる。現実とは異なる色彩を用いて描く。
- 1955 再度、パリへの留学を決意し、アメリカ経由で出発する。途中で立ち寄ったニューヨークの熱気に魅力を感じ、以後、約20年間ニューヨークで活動が続ける。渡米後しばらくして、作品から具体的な物の形が消える。
- 1964 このころから線で画面を埋め尽くしたなかに、ところどころ円を描いた作品を制作するようになる。その後、徐々に空間があらわれ直線や真円が多用されるようになる。「街」をテーマとしている。
- 1973 一時帰国していた猪熊がニューヨークへ戻る際に開かれた送別会の席上、脳血栓で倒れる。
- 1975 ニューヨークでの制作が困難になり、アトリエを閉める。以後、冬の間はハワイで、その他の季節を東京で制作する。ハワイの太陽と自然に接し、色彩は明るく豊かになり、描かれる形もいっそう多様になる。
- 1988 最愛の文子夫人が亡くなる。顔を、丸の中に面白い形を組み合わせたものといい、顔の連作を始める。すぐに顔だけでなく、動物やその他の形を一つの作品に描き込みはじめる。抽象と具象の枠組みを意識せずに描く。
- 1991 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。
- 1993 逝去 享年90歳。

### 【受賞歴】

- 1929 〈光風会第16回展〉で光風賞受賞
- 1929 〈帝国美術院第10回美術展覧会〉特選
- 1933 〈帝国美術院第14回美術展覧会〉特選
- 1950 第2回（昭和25年度）毎日芸術賞受賞
- 1964 〈第6回現代日本美術展〉で国立近代美術館賞受賞
- 1980 勲三等瑞宝章受賞
- 1993 第34回毎日芸術賞受賞

## **[展覧会等のお知らせ]**

### **■ 同時開催展**

企画展：猪熊弦一郎展 丸亀とともに ―香川県立丸亀高等学校所蔵作品を中心に（展示室A）

常設展：猪熊弦一郎展 うつくしい からだ（展示室B）

会 期：2013年11月16日（土）-2014年2月16日（日） 休館：12月25日（水）-12月31日（火）

\*11月23日（土・祝）は開館記念日のため観覧無料

\*12月20日（金）はコンサート準備のため常設展は観覧無料。ただし15：00-18：00は  
ご覧いただけません。

### **■ 次回開催企画展**

あそびのつくりかた（仮称）

2014年3月1日（土）-5月25日（日）（予定） 会期中無休